

へかけての明るさと、さわやかさにあふれた絵本です。

夕立に雷は夏のもですが、雷のあった日の夜など、親子して「へそもち」(渡辺茂男文、赤羽末吉絵、福音館書店、二五〇円)

を読むたのしきは、また格別でしょう。好物のおへそをとりに地上へやってくる雷の愉快なお話です。科学的に雷を扱ったものは「ぴかっごころごころ」(フランクリン・M・ブラントリー文、エド・エンバリー絵、山田大介訳、福音館書店、三六〇円)があります。

これは、福音館書店が、昨年から出しはじめた低学年向きの科学書シリーズの一冊ですが、同シリーズの中には「じめんのうえとじめんのした」(三八〇円)「大きいってどんなこと」(三九〇円)「あなたは星の子」(四九〇円)等々、幼い子にもよくわかるよ

### 夏休みのための読書のすすめ

## 読書への提案

夏休みは一学期が終わり、ホッとひといきつく時です。講習会・研修会・夏期保育と、はた目にもみるほどひまではないのです。

しかし、ふだん読もう読もうと思っても一日のつかれのためどうしても夜はまぶたがなかくなくなってしまいます。

うに書かれた、すぐれた科学書があります。自然に親しむ機会の多い時に、書物を通して、疑問に対する解答を見つけ、さらに大きな疑問というか不思議がる、心を育てることは、いいことだと思います。

お値段や大きさが手頃で、家中で旅行にも携帯できる図鑑的なものとしては講談社の原色・自然の手帳シリーズ(各四六〇円、「磯の生物」「日本の貝」「昆虫」等)や、保育社のカラーブックス(各二〇〇〜二五〇円、「金魚」「カラー歳時記鳥」等)があり、説明は読めなくても、幼い子は、カラー写真を丹念にながめてはたのしんでいます。

### 清水エミ子

そこで夏休みに、一さつのみとまった本を読むことを提案します。

一学期の子どもたちをみなおしてみるための尺度になるような本はいかがでしょう。

ゲゼルの乳児の心理学など、生まれてから幼児になるまでの発達を、もう一度知っておくことが、二学期からの保育に非常に役に立つと思われるのです。また、波多野完治先生の心理学入門などをサッと目を通し、発達途上での心理的現象をとらえるのに役立つと思われるのです。

私たちは、今担任している子どももの年齢に、関係のある部分や書物しか読まないくせがついてしまっているのではないでしょう。乳児から、このように発達してきて、現在、このようになるのだ、自分の担任しているクラスの子どもたちは、こうだと比較して考えることをしたいものです。

もうひとつの提案は、

月刊保育雑誌の前年分を読みなおしましょう。連載の特集など、つづけて読みなおすと、また新たなものを得ることができるのです。

### 夏休みのための読書のすすめ

## 倉橋惣三選集(第四卷)

# 保育案を中心として

そして、必要な記事を切りぬき、小冊子を作るのもたのしく、身になるものです。

幼児文学、児童文学(童話・物語・民話)の本を、たのしみながら読むようにしましょう。どんな童話が、どの国のだれによって作られたかなど、系統的に名作を読むことが大切です。むかしむかしなど、民話の本を一日ひとつずつ読むようにし、二学期の話のたねをたくわえるようにしたいものです。

夏休みの読書は、何をどう読むというよりは手持ちの書物の読みなおしをおすすめします。

ホームレーン・ゲゼルなど、どんなものでもまとまった書物や、ずつと目を通しなおすことが大切です。名作童話なども、代表作を読みなおし子どもにあたえられるようにしておきましょう。

月刊誌などもばかにせず、前年度分の読みなおしなども、思わぬひろいものがあるものです。

神 沢 良 輔

倉橋惣三については、いまさら紹介する必要はないが、倉橋惣

三の著作が選集の編集によって、手近なところで読めるようにな